

## 第5学年国語科学習指導案

日 時 平成18年9月29日(金) 5校時  
児 童 男子3名、女子2名 計5名  
指導者 荒川 守

### 1 育てたい能力

- ◎登場人物の人柄や場面の情景を、叙述に即して読む(読 ウ)
- 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつ(言ウ(エ))
- 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話す(言カ(イ))

### 2 単元名 人物の考え方や生き方をとらえよう

教材名 「わらぐつの中の神様」 杉 みき子 作 黒井 健 絵

### 3 教材について

#### (1) 児童について

児童は、これまでの学習により、文学的文章において、大事な文や言葉に着目し、叙述に即して登場人物の心情の変化を読み取ることができるようになってきている。

##### ①読みの視点について

登場人物の気持ちを読み取るために、最初の段階において、登場人物の気持ちは登場人物の会話・行動・様子等に書かれているということをお教えた。そのことによって児童は、登場人物の会話・行動・様子に目を付けて読んでいけばいいということは分かってきたが、読みの視点が広すぎた(大ざっぱだった)ために、その後の読み取りが薄い(深まらない)ものとなってしまった。そこで、読みの視点を広くとらえるのではなく、誰の何に注目して読んでいけばいいのか、読みの視点をしぼることと、それがどこに書かれているのか指摘できるようにすることを意識することで、児童は、誰の何に注目して読んでいけばいいのか、読みの視点を根拠を持って発表できるようになってきた。また、読みの視点をもとにどこを中心に読んでいけばいいのか、指摘できるようになってきた。「新しい友達」では、課題文の「変わったのはなぜでしょう。」から、何で変わったかその理由が分かればいいことを確認し、「わたし」のまりちゃんに対する気持ちが変わったところを読み目の視点にして読み取っていけばいいことを確認できた。

##### ②一人学びについて

読みの視点が広すぎた(大ざっぱだった)ために、一人学びにおいて、大事な言葉や文にサイドラインを引くことだけで精一杯で、書き込みができない児童がほとんどだった。それが、読みの視点を明確にすることで、どこを中心に読んでいったらいいのか(一人学びのところ)が分かり、じっくりと時間をかけて読むことで、着目した大事な言葉や文から分かることや考えられること、気持ちを書き込めるようになってきた。しかし、一人学びの方法を自分たちで決める(選ぶ)という力は不足している。また、内容においても、本時や他の場面で読み取ったことや考えたことと関係付けながら(関連させて)書き込むところまでには至っていない。

#### (2) 教材について

学習指導要領における第5学年及び第6学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。本単元では、第5学年及び第6学年の「C読むこと」の指導事項「ウ登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと」を重点目標として取り上げる。

本教材は、不格好だが心をこめて作ったわらぐつの本質を見抜いて買っていく「大工さん」と、わらぐつをはく相手を思いながら作っていた「おみつさん」の交流を通して、心の純粋さや正直・思いやりなどを価値あるもの・尊いものと思う心を描いた作品である。

おみつさんの人柄や大工さんの考え方などを二人の会話(文末など)や行動(繰り返しなど)から、叙述を基に読み取ることができる。特に、「心をこめてつくったものには、神様が入

っている」という一文は光っている。

また、この作品は、現在一過去一現在という構成でできており、過去の話現在の「マサエ」が聞くという形になっている。作者の表現の効果を学ぶのに適した教材である。

これらのことから、本教材は「登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと」に適した教材であると考えられる。

### (3) 指導について

《本校の研究に関わって》

#### ① 読みの視点について

5 場面で構成されている物語を1 場面ごとに区切り、それぞれの場面の読みの視点を、既習事項を生かし、課題文や言語事項（文末や繰り返し、方言や慣用句等）を意識して発表できるようにする。また、読みの視点に沿って読み深めていくところ（一人学びで読み深めていくところ）を児童が指摘できるようにする。

#### ② 一人学びについて

他の場面と関係付けながら（関連させて）読み取らせていく場面として、4 の場面を取り上げる。ここでは、一人学びのところを、「大工さんの行動」1 つと「大工さんの会話」1 つにしぼることで、文や言葉と向き合い、じっくりと考えさせたい。そして、一人学びの方法を児童自らが既習事項を生かして決めるようにし、大事な言葉をノートに抜き書きさせ、その言葉から分かることや言葉と言葉の関係等について書き込ませる。できれば、抜き書きした言葉全体を見て、書き込みをさせていきたい。「大工さんの考え」と「おみつさんの考え」が同じだということを一学級の段階で気づく児童がいるかもしれないが、気づかない場合には学び合いの段階で気づかせていきたい。

## 4 学習指導目標と評価規準

	学 習 指 導 目 標	評 価 規 準
関 心 意 欲 態 度 国 語 へ の	○物語の温かさに引かれて、心に残る言葉や文章、情景や場面を楽しんで読もうとする。	・物語の温かさに引かれて、心に残る言葉や文章、情景や場面を楽しんで読もうとしている。
読 む 能 力	◎登場人物の人柄や場面の様子、情景を叙述に即して読むことができる。 (読 ウ)	・「わらぐつの中の神様」に描かれた登場人物の人柄や場面の様子、情景を叙述に即して読んでいる。
知 識 理 解 技 能 言 語 に つ い て の	○題名の意味するものを考えるために、必要な語句を増やすことができる。 (言ウ(工)) ○方言と共通語の違いを理解することができる。 (言カ(イ))	・題名の意味するものを考えるために、必要な語句を増やしている。 ・方言と共通語の違いを理解している。

## 5 指導計画・評価計画（別紙）

## 第6学年国語科学習指導案

日 時 平成18年9月29日(金) 5校時  
児 童 男子5名、女子2名 計7名  
指導者 荒川 守

### 1 育てたい能力

- ◎「やまなし」に描かれた情景を、叙述に即して想像しながら読む(読 ウ)
- 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつ(言ウ(工))

### 2 単元名 表現を味わい、豊かに想像しよう

教材名 「やまなし」 宮沢 賢治 作 かすや 昌宏 絵  
「イーハトーヴの夢」 畠山 博 筆

### 3 教材について

#### (1) 児童について

児童は、これまでの学習により、文学的文章において、大事な文や言葉に着目し、叙述に即して登場人物の心情の変化を読み取ることができるようになってきている。

##### ①読みの視点について

登場人物の気持ちを読み取らせるために、最初の段階において、登場人物の気持ちは登場人物の会話・行動・様子等に書かれているということをお教えた。そのことによって児童は、登場人物の会話・行動・様子に目を付けて読んでいけばいいということは分かってきたが、読みの視点が広すぎた(大ざっぱだった)ために、その後の読み取りが薄い(深まらない)ものとなってしまった。そこで、読みの視点を広くとらえるのではなく、誰の何に注目して読んでいけばいいのか、読みの視点をしぼることと、それがどこに書かれているのか指摘できるようにすることを意識することで、児童は、誰の何に注目して読んでいけばいいのか、読みの視点を根拠を持って発表できるようになってきた。また、読みの視点をもとにどこを中心に読んでいけばいいのか指摘できるようになってきた。「カレーライス」では、課題文の「変わったのはなぜでしょう。」から、読みの視点を「ぼく」の気持ちが変わったところとし、今までの「ぼく」のお父さんに対する気持ちが変わったのが分かる文(言葉)を指摘することができた。

##### ②一人学びについて

読みの視点が広すぎた(大ざっぱだった)ために、一人学びにおいて、大事な言葉や文にサイドラインを引くことだけで精一杯で、書き込みができない児童がほとんどだった。それが、読みの視点を明確にすることで、どこを中心に読んでいったらいいのか(一人学びのところ)が分かり、じっくりと時間をかけて読むことで、着目した大事な言葉や文から分かることや考えられること、気持ちを書き込めるようになってきた。しかし、一人学びの方法を自分たちで決める(選ぶ)という力は不足している。また、内容においても、本時や他の場面で読み取ったことや考えたことと関係付けながら(関連させて)書き込むところまでには至っていない。

#### (2) 教材について

学習指導要領における第5学年及び第6学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。本単元では、第5学年及び第6学年の「C読むこと」の指導事項「登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと」を重点目標として取り上げる。

教材では、初めに宮沢賢治の作品「やまなし」を場面の情景を叙述に即して想像して読み取る。「やまなし」は、二枚の幻灯に映し出された谷川の情景や出来事がかにの視点で描かれている。

作者は、谷川の情景を比喩や擬声語・擬態語、色彩語を巧みに使い、リアルにかつ幻想的に表現している。

また、かへの視点から映し出される世界は、自然の美しさや不思議さ、生き物の生死等について読者に問いかけてくる。

これらのことから、本教材は「登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと」に適した教材であると考えられる。

そして、「イーハトーヴの夢」で宮沢賢治の生き方や考え方を自分の考えをもちながら読み、再度「やまなし」を読むことで自分の読みを深めたり並行読書をする事で賢治のその他の作品に触れたりする。

### (3) 指導について

《本校の研究に関わって》

① 読みの視点について	<p>「五月」と「十二月」の谷川がどんな世界なのか読み取ろうという課題を設定し、既習事項をもとに読みの視点を1つ(谷川に入ってきたものの様子)に絞らせる。また、「五月」の学習で学んだ比喩や擬声語・擬態語、色彩語等の言語事項を、「十二月」の学習において既習事項として使えるようにする。</p>
② 一人学びについて	<p>一人学びの方法を児童自らが既習事項を生かして決めていけるようにする。そして、読みの視点に沿って、「五月」と「十二月」を読んでいき、大事な文や言葉を見つけ、それをノートに抜き書きし、その文や言葉から分かることや気持ち、思ったことや想像したこと等を「五月」の世界と比べて書き込ませようとする。抜き書きした言葉全体を見て、書き込みをさせていきたい。</p>

## 4 学習指導目標と評価規準

	学 習 指 導 目 標	評 価 規 準
関心 意欲 態度	<p>○情景や宮沢賢治独特の表現に興味をもち、賢治の作品や生き方を知らうとする。</p>	<p>・情景や宮沢賢治独特の表現に興味をもち、賢治の作品や生き方を知らうとしている。</p>
読む 能力	<p>◎「五月」と「十二月」を比較しながら、「やまなし」に描かれた情景を、叙述に即して想像しながら読むことができる。 (読 ウ)</p> <p>○宮沢賢治の生き方について、自分の考えをもちながら読むことができる。 (読 エ)</p>	<p>・「五月」と「十二月」を比較しながら、「やまなし」に描かれた情景を、叙述に即して想像しながら読んでいる。</p> <p>・宮沢賢治の生き方について、自分の考えをもちながら読んでいる。</p>
知識 理解 技能	<p>○語感、言葉の使い方に対する感覚などに関心をもって読むことができる。 (言ウ(エ))</p>	<p>・擬態語や擬声語、色彩語、水中の様子を表す言葉などに興味をもって読んでいる。</p>

## 5 指導計画・評価計画(別紙)



5	<p>わらぐつを編むおみつさんの思いを読み取ることができる。</p> <p>○わらぐつを編むおみつさんの思いを読み取ろう。</p>	<p>○おみつさんの行動</p> <p>○わらぐつの様子</p> <p>・わらぐつ作りをはじめました・なかなか思うようにはいきません・はく人がはきやすいように～しっかりしっかり、わらを編んでいきました・変な格好・上からつま先まで～このうえなし・元氣よく・自分の手のとどくところへ～楽しくなりました</p>	<p>関：○内容や表現に関心を持ち、進んで人物の関係や心の動きを読み取ろうとしている。</p> <p>読：◎わらぐつを編むおみつさんの思い（人柄）を、わらぐつの様子やおみつさんの言動から読み取っている。</p> <p>言：○繰り返しの表現に気付いている。</p> <p>（発言・ノート）</p>	<p>おみつさんがどんな思いでわらぐつを編んだのかが分かる部分を「わらを編んでいきました」という言葉に着目させ探させる。</p>							
6	<p>おみつさんのわらぐつを買った大工さんの人柄を読み取ることができる。</p> <p>○おみつさんのわらぐつを買った大工さんは、どんな人なのだろう。</p>	<p>○大工さんの会話・行動</p> <p>・たてにししたり横にししたりして、しばらくながめて・次の市・その次の市・その次も、またその次も・まじめな顔になって・仕事のよしあしは分かるつもりだ・使う人の身になって～</p>	<p>関：○内容や表現に関心を持ち、進んで人物の関係や心の動きを読み取ろうとしている。</p> <p>読：◎わらぐつを通しておみつさんの人柄に惹かれている大工さんの様子を、大工さんの言動から読み取っている。</p> <p>言：○「～たり～たり」や文末表現に気付いている。</p> <p>（発言・ノート）</p>	<p>不格好なわらぐつなのにどうして大工さんはわらぐつを買ってくれたのか、おみつさんと大工さんの物作りに対する共通の考え方に着目させて考えさせる。</p>							
7	<p>マサエの感動と変容を読み取ることができる。</p> <p>○おばあちゃんの話聞いて、マサエはどう変わったか読み取ろう。</p>	<p>○マサエの会話・行動</p> <p>・使う人の身になって～神様が入っている・目をくりくりさせて・神様みたいに・目をかがやかせました・雪げたの中にも神様がいるかもしれないね・雪げたをかかえたまま～飛び出して</p>	<p>関：○内容や表現に関心を持ち、進んで人物の関係や心の動きを読み取ろうとしている。</p> <p>読：◎おみつさんと大工さんが、おばあちゃんとおじいちゃんだと気が付いた後のマサエの変容について読み取っている。</p> <p>言：○文末表現に気付いている。</p> <p>（発言・ノート）</p>	<p>おばあちゃんの話聞く前のマサエ（特にわらぐつに対するマサエの思い）が、話を聞いた後どのように変わったのか、マサエの様子や雪げたに対する思いから読み取らせる。</p>							
8	<p>読み取ったことをまとめることができる。（「現在—過去—現在」という構成の効果について考えることができる。）</p> <p>○作品の主題や作者の表現の工夫について考えよう。</p>	<p>○人物の人柄や考え方が表われている言葉</p> <p>・はく人がはきやすいように～・使う人の身になって～・心をこめて作ったものには、神様が入っている</p>	<p>関：○作品の主題や作者の表現の工夫について考えようとしている。</p> <p>書：◎作品の主題や作者の表現の工夫について考え、まとめて書いている。</p> <p>（発言・ノート）</p>	<p>おみつさんや大工さんの物作りに対する共通の考え方を確認させ、そのことについてどう思うか考えさせる。</p>							
9	<p>「方言と共通語」を読み、それぞれのよさと役割を知ることができる。</p> <p>○方言と共通語、それぞれの持ちよう（よさ）をまとめよう。</p>	<p>○方言と共通語のよさ</p> <p>・人々の気持ちや感覚をぴったりと言い表せる（方言）</p> <p>・どの地方の人にも分かる（共通語）</p>	<p>関：○「方言と共通語」を読み、それぞれのよさと役割を知ろうとしている。</p> <p>言：◎方言と共通語のそれぞれのよさや、場面による使い分けの大切さを理解している。</p> <p>（発言・ノート）</p>	<p>「～のいいところですよ」や指示語から方言や共通語のよさについて見つけさせる。</p>							

5 指導計画と評価計画（全10時間） 「やまなし」

時	本時のねらいと課題（○）	読みの視点（○）及び大事な言葉（・）	評価規準 （評価の方法）	支援の手立て
1	全文を通読し、文章構成をとらえ、初発の感想をもつことができる。 ○物語を読み、感想を書こう。	○題名 ○登場人物 ○おおまかな出来事 ○谷川の情景	関：○教材に関心をもっている。 読：◎叙述を読み、谷川の情景について、感想や疑問をもっている。 言：○漢字や語句について理解している。 （発言・態度・ノート）	一番心に残ったことや思い浮かんだこと、気になったことについて考えさせる。
2	単元のめあてを知り、学習課題をつくり、学習計画を立てることができる。 ○学習計画を立てよう。	○谷川の情景（様子） ○かのにの兄弟・親子の会話・行動 ○谷川に入ってきたものの様子	関：○「五月」と「十二月」の世界について、課題意識をもとうとしている。 読：◎単元のめあてを知り、「五月」と「十二月」、両方の谷川の世界を読んでいくための学習計画を立てている。 （発言・ノート）	自分が特に興味を持ったもの一つにしぼらせ、それを読みの視点として物語を読んでいくように計画を立てさせる。
3 ・ 4	五月の谷川の世界を想像することができる。 ○「五月」の谷川はどんな世界だろう。	○谷川の情景（様子） ・にわかにはっと明るくなり、～夢のように・白いかばの花 ○かのにの兄弟・親子の会話・行動 ・「クラムボンは～」・声も出ず、居すくまって・「こわいよ」 ○谷川に入ってきたものの様子 ・青光りのまるでぎらぎらする鉄砲だまのようなものが、～	関：○情景や賢治独特の表現に興味をもち、「五月」の谷川の世界を読み取ろうとしている。 読：◎五月の谷川が、明るく美しいが、死の恐怖を感じさせる恐ろしい世界であることを読み取っている。 言：○色彩語、擬態語・擬声語、比喻表現に気付いている。 （発言・ノート）	自分が選んだ読みの視点に沿って、大事な言葉にサイドラインを引かせ、その言葉から分かることや考えられること、想像したことを書き込ませる。
本 時 5	十二月の谷川の世界を想像することができる。 ○「十二月」の谷川はどんな世界だろう。	○谷川の情景（様子） ・ラムネのびんの月光がいっぱいにすぎ通り、～ ○かのにの兄弟・親子の会話・行動 ・「いいにおいだな」・おどるようにして・「待て待て」 ○谷川に入ってきたものの様子 ・トブン・黒い丸い大きなもの・ほかほか流れていく	関：○情景や賢治独特の表現に興味をもち、「十二月」の谷川の世界を読み取ろうとしている。 読：◎十二月の谷川が、水は冷たく静かではあるが、温かく平和に満ちた世界であることを読み取っている。 言：○色彩語、擬態語・擬声語、比喻表現に気付いている。 （発言・ノート）	「十二月」の谷川の世界の予想の根拠が分かるころ（自分の読みの視点に沿ったもの）にサイドラインを引かせ、その言葉から分かることや考えられること、想像したことを書き込ませる。

6	<p>「五月」と「十二月」の谷川の世界を比較して話し合い、感想をまとめることができる。</p> <p>○作品の主題や作者の表現の工夫についてまとめよう。</p>	<p>○谷川の情景（様子）</p> <p>○かのにの兄弟・親子の会話・行動</p> <p>○谷川に入ってきたものの様子</p> <p>○季節・時間</p> <p>○色彩語</p> <p>○比喩</p>	<p>関：○賢治の表現の工夫に気づき、作品を通して賢治が伝えなかったことについて考えようとしている。</p> <p>読：◎「五月」と「十二月」を対比することで、賢治の表現の工夫に気づき、作品を通して賢治が伝えなかったことについて考えている。</p> <p>言：○対比表現について気付いている。</p> <p>（発言・ノート）</p>	<p>壁面掲示を手がかりにさせ、観点を与え、「五月」と「十二月」を比べさせる。</p>
7 8	<p>「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方をつかむことができる。</p> <p>○宮沢賢治の生き方や考え方についてまとめよう。</p>	<p>○宮沢賢治の生い立ち</p> <p>○宮沢賢治の生き方・考え方</p> <p>・そのために一生をささげたい・苦しい農作業の中に、楽しさを見つける・工夫することに、喜びを見つける・未来に希望をもつ・やさしさを・ていねいに教えてあげた</p>	<p>関：○賢治の生き方や考え方に触れ、それについて自分なりに感想をもって読もうとしている。</p> <p>読：◎賢治の生き方や考え方に触れ、それについて自分なりに感想をもって読んでいる。</p> <p>言：○読み取りに必要な語句に目を向けている。</p> <p>（発言・ノート）</p>	<p>宮沢賢治の生き方や考え方が表れている言葉や文にサイドラインを引かせることで、賢治の生き方や考え方を捉えさせる。</p>
9	<p>「やまなし」で読み取ったことと結び付けて、賢治の命に対する考え方について話し合うことができる。</p> <p>○題名を「やまなし」にしたのはなぜだろう。</p>	<p>○宮沢賢治の「命」に対する考え方</p>	<p>関：○題名を「やまなし」にしたことについて「命」をもとに考えようとしている。</p> <p>読：◎題名を「やまなし」にしたことについて「命」をもとに考えている。</p> <p>（ノート）</p>	<p>谷川の中の世界と外の世界との関係や、「やまなし」が与えてくれたもの、また、その関係について考えさせる。</p>
10	<p>「やまなし」や「イーハトーヴの夢」で読み取ったことをもとにしながら、賢治の他の作品を読むことができる。</p> <p>○今までの学習をもとにして、宮沢賢治の作品を読もう。</p>	<p>○宮沢賢治の考え方</p>	<p>関：○進んで賢治の他の作品を読もうとしている。</p> <p>読：◎賢治の生き方や考え方、理想としていたものについて知り、賢治の他の作品を読んでいる。</p>	<p>自分たちと同じ岩手県の人（身近な人）という感覚で宮沢賢治を捉えさせ、賢治がみんなに伝えなかったことについて、実際に本を読むことで考え（確認）させる。</p>



(4) 本時の展開

指導上の留意点(・)及び評価( )	学 習 活 動	段階	段階	学 習 活 動	指導上の留意点(・)及び評価( )
<p>・大きな声ではっきりと読ませる。                      ・「たてにしたり横にしたりして、しばらくながめてから」と「おれは、～とってるんだ。」の2つに絞り、大事な言葉をノートに抜き書きし、その言葉から分かることや考えられること、思ったことなどを書き込むことを確認させる。</p> <p>・叙述から分かることや考えられることなどを、本時や前時までの学習と関わらせて書かせるようにする。</p> <p>・叙述をもとに、本時や前時までの学習と関わらせながら考えさせ、読ませるようにする。                      ・「大工さんは何に気づいていたのか」考える視点を与える。                      ・大工さんの会話を音読させることで、「～だ。」の言葉の効果について気付かせる。                      言：「～たり～たり」という言葉や「～だ。」という言い切りの言葉の効果に気付くことができたか。</p>	<p>1 本時の学習場面を音読する。                      2 課題や前時の学習で話し合った読みの視点と一人学びの部分、一人学びの方法について確認する。                      3 第4場面を読む。                      (1)一人学びをする。</p>	ふ	つ か む 5	<p>1 本時の学習場面を音読する。                      2 前時の学習を想起する。                      ・五月の谷川は、明るく美しいが死の恐怖を感じさせる恐ろしい世界                      3 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>「十二月」の谷川は、どんな世界だろう。</p> </div>	<p>・大きな声ではっきりと読ませる。                      ・前時に書いたまとめを発表させることにより、「五月」の谷川の世界を想起させる。(読みの視点も)</p> <p>・ノートに書かせ、黙読、一斉読をさせることで課題を意識させる。</p>
	<p>(2) 学び合いをする。                      ・一人学びしたことを発表する。                      ・おみつさんと大工さんの関わりについてじっくりと読む。</p>	ふ	ふ か め る 3	<p>4 学習の見通しを持つ。                      ・読みの視点と一人学びの方法について話し合い、確認する。</p> <p>5 「十二月」の場面を読む。                      (1)一人学びをする。                      ・「十二月」の谷川の世界を変えた「やまなし」の様子(描写)に着目し、大事な言葉をノートに抜き書きする。                      ・大事な言葉から分かることや考えられること、思ったことや想像したことなどを書き込む。</p>	<p>・「十二月」の谷川の世界を変えた「やまなし」の様子(描写)に焦点を当て、前時の学習をもとに色彩語や擬態語(擬声語)、比喩表現を意識して大事な言葉を見つけていくこと、そして、その大事な言葉から分かることや考えられること、想像したことなどを書き込むことを児童に語らせる。</p>
		ふ	ふ か め る 16		

<p>読：読み深めたことをもとに、おみつさんのわらぐつを買った大工さんの人柄（物や人の価値を、外見ではなく、中味で判断する人）について書くことができたか。</p> <p>・7分経ったら、「わらぐつの中の神様」の「神様」とは何かについて考え、ノートに書くことを伝える。</p> <p>・「神様」という言葉から、「目に見えないもの、尊いもの」というイメージを持たせ、作る人の心（気持ち）が神様だということを捉えさせる。</p>	<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>・学んだことをもとに、おみつさんのわらぐつを買った大工さんの人柄を書く。</p>	ふかめる 7		8	<p>(2) 学び合いをする。</p> <p>・一人学びしたことを発表する。</p> <p>・トブン、ほかほか、もかもかの言葉から分かることや考えられること、想像したことなどについてみんなで話し合う。</p> <p>・「やまなし」をかにはどう思っているのか、かへの会話・行動から確認する。</p> <p>・谷川の変わらないものについて確認する。</p>	<p>・話し合っていく中で、「やまなし」がもたらした「優しさ」「温かさ」を捉えさせる。</p> <p>言：色彩語や擬声語、擬態語、比喩表現の効果に気付き、これらの言葉から様子を想像することができたか。</p> <p>・「やまなし」とかへの会話・行動を結び付けさせる。</p> <p>・前時の学習を振り返らせることで、繰り返しの表現に着目させる。</p> <p>読：読み深めたことをもとに、冷たく美しく静かな「十二月」の谷川は、やまなしがもたらした優しさと温かさに包まれた世界であることについて書くことができたか。</p>
	<p>5 「わらぐつの中の神様」の「神様」とは何かについて考える。</p> <p>(1) 一人学びをする。</p> <p>・自分の考えをノートに書く。</p>	ふかめる 2		ふかめる 9		
	<p>(2) 学び合いをする。</p> <p>・みんなで、「わらぐつの中の神様」の「神様」とは何かについて考える。</p>	ふかめる 5		ふかめる 5		
<p>・指名発表をさせる。</p> <p>・読みの視点と言語事項を意識した学び方についてのまとめをする。</p>	<p>6 まとめをする。</p> <p>(1) まとめの発表をする。</p> <p>(2) 学び方の確認をする。</p> <p>(3) 自己評価をする。</p> <p>(読みの視点、一人学び、学び合い、まとめ)</p> <p>(4) まとめの音読をする。</p>	ひろげる 7	共通 まとめ	ひろげる 7	<p>7 まとめをする。</p> <p>(1) まとめの発表をする。</p> <p>(2) 学び方の確認をする。</p> <p>(3) 自己評価をする。</p> <p>(読みの視点、一人学び、学び合い、まとめ)</p> <p>(4) まとめの音読をする。</p>	<p>・指名発表をさせる。</p> <p>・読みの視点と言語事項を意識した学び方についてのまとめをする。</p>

(5) 板書計画

<p>おみつさんのわらぐつを編む時の思い</p> <p>まとめ</p> <p>・見た目で判断する人ではなく、中味で判断する人</p> <p>・自分の仕事に対する考えに自信を持っている人</p> <p>おみつさんと同じ考えを持っている人</p>	<p>同じ</p> <p>見かけて決まらない。「た」自信使う人の身になって、使いやしくじょうぶで長もちするようにつくろう。</p>	<p>大工さんの仕事に対する考え</p> <p>いい仕事（ほんとのいい仕事）</p> <p>じっくり見ている</p>	<p>読みの視点・大工さんの会話・行動</p> <p>たてにしたり横にしたりして、しばらくながめてから、</p>	<p>課題</p> <p>おみつさんのわらぐつを買った大工さんは、どんな人なのだろう。</p>	<p>わらぐつの中の神様 杉 みき子作</p>	<p>課題</p> <p>「十二月」の谷川は、どんな世界だろう。</p>	<p>読みの視点</p> <p>・やまなしの様子</p> <p>・擬態語・擬声語・色彩語</p>	<p>やまなし 宮沢 賢治作</p>
---	---	--	--	---	-------------------------	--------------------------------------	--	--------------------